

縁結びの紙



種口正行 (紫竹7、32歳)
知り合うことが、私にとつては縁結びの紙...
あれから七年、紙のご加減で、家族五人から八人となり、我が家として市報は必需品です...



市報が結んだ縁、種口さん一家

身近な茶飲み友達

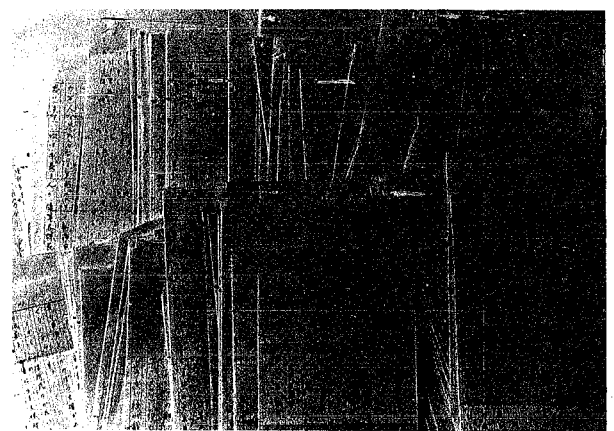
玉井康子 (寺尾上3、41歳)



札幌から新潟に移り住んで一年余りが経過し、行政などにかなり通じたが、同様に雪国、海山などの自然環境も似ており、「好きです新潟」になりつつあります...

「市報と私」意見特集

親しみある紙面へさらに改善



市民の皆さんから寄せられた「市報と私」の投稿の山

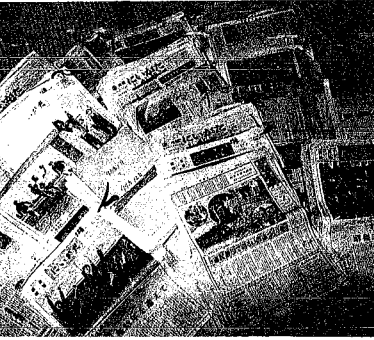
「市報と私」というテーマで市民の皆さんから意見を募集したところ、女性六十三人、男性五十四人の方から百八十四通も寄せられました...

創刊号から毎号保存

堀山ひよ (関屋金術町1、69歳)



市報は、当初日一回二を求めて海外移住が、田中ベージものでした。創刊の年、角楽代議士が地盤下問題で昭和三十年は、十月に大火...



堀山さんが保存している市報のつづり

さまざまな広告の中から、日曜日には、真っ先に「市報にいがた」を探し出し、百パーセント、目を通す...

写真の公募も...

筒井綾子 (関屋本村町1、54歳)



紙面の大きさがこれだけで、あると、むしろ適当だと思ふ。基本的に、現在の編集方針で結構だ...

新しい市報との出合いが楽しみ

加藤美智子 (鑑西2、48歳)



私共家族は二、三年に一度くらい引越して余儀なくされている転勤族で、新しい市報、広報との出合いがあり、それがとても楽しみです...

私の散歩道の思い出

秋元俊明 (和合町1、62歳)



60年6月9日号、秋元さんの「私の散歩道」

妻の整理しているアルバムに、「私の散歩道」が載りだまっていた。昨年の六月九日付け「市報にいがた」の切り抜きである...

「市民の声」を載せては

国分真三 (米山5、43歳)



「市報にいがた」を意識して読みはじめたのは、二、三年のことである。川上市政になってから、「市報」が充実し、市民が何を求めているのか、それによってどう伝えるべきかを的確に判断した記事が多...

精神障害者の力に

浅川一男 (中山4、58歳)



ことは、今でも忘れ難い。あの時、かつて私の入院していた病院の病友たちから、よく書いてくれたと手紙を返された。その後も、精神障害者同士の交流が盛んになり、私もその一員として活躍する機会を得た...

善意の人たちとの巡り合い

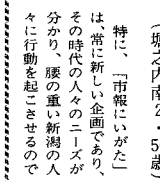
福田武子 (関屋下川原町2、55歳)



昭和四十七年七月の、市報「学歴年齢を問わないこと」の小さな記事が、私をうなづかした。戦中教育で学力がなかった私に接する機会を与えてくれたからです...

学生への講義に活用

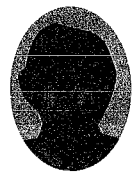
村山ヒサエさん (堀之内南2、56歳)



私の利用法は、市報の一番下の段にある「市民の声を」のコーナーを、学生に配布して講義の資料として活用している。これは、学生の講義の教材として活用している...

衆に流されることなく

小泉多恵 (東堀通2、61歳)



「市報にいがた」が身となつて、開折り込みになってからは、目にするたびに、市報の良さを改めて実感しています。五十年代は、市内に新聞がなかった。市民の生活に支えられてきた。市報にいがたは、市民の生活を支えている...

小型な紙面に充実した内容

長井初伊 (上新栄町、83歳)



市民の先達としての市報は、小型な紙面に充実した記事が載せている。市報、育兒、医療相談、そのほか市民に必要とされる記事を掲載している...

育兒に欠かせぬ市報

野中房子 (姥ヶ山1、26歳)



結婚生活のスタートが新潟市に落ちた。親類も友人もいない。市報にいがたは、育兒、医療相談、そのほか市民に必要とされる記事を掲載している...

生涯学習の教材に

平沢貞盛 (五十嵐2の町、65歳)



日曜日の朝の新聞は、ドックサリと読んでいる。市報にいがたは、生涯学習の教材として活用している...

愛される市報に

小泉うめ乃 (新石山3、58歳)



私のところは四世世代の家。同居です。市報にいがたは、愛される市報に。市報にいがたは、市民の生活を支えている...